

植物多様性センターの「ヒトリシズカ」

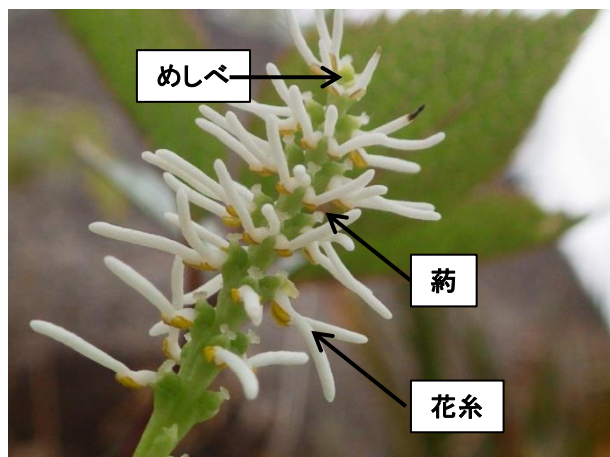
ヒトリシズカは早春の山でよく出会う植物です。ガクや花弁をもたない無花被の花は、通常わたくしたちが見慣れた花の構造とはひと味違っていています。白いブラシ状の部分はおしべの花糸で、花粉の入った黄色い葯は先端ではなく、基部に下向きにつきます。花弁はなくても遠くから白い花糸が目立つとともに、訪花昆虫の足場になる構造であるといわれます。



早春の出芽:4枚の十字対生の葉に包まれて開花し始める



開花:ブラシ状の白いおしべと基部には1個のめしべがある



葯のつきかた:おしべの白い花糸の基部に下向きにつく



若い果実:受粉して種子ができると茎が傾いてくる